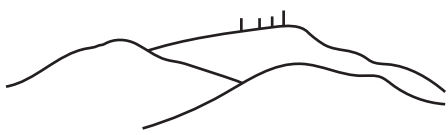


Youth Manna

2021/6/14 - 6/20



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/6/14(月)

使徒 9:19b-31

ダマスコへの道の途上でイエスに出逢ったサウロはバプテスマを受け(9:2,18節)、直ちに「イエスは神の子である」と宣べ伝え始めた(20節)。中には、キリストを信じてまだ日が浅いからキリストを伝える資格がない、と自信がない人もいるかもしれない。しかし、神様のことを伝えるのに、聖書の知識がどれだけあるか、信仰を持ったのがいつか、ということとは関係ない。

また、ステパノ(7章)やピリポ(8章)、サウロ(9章)、一人一人が大胆にキリストを伝え続けた結果、サマリア等異邦人の地にも教会が建て上がってきた(31節)。

今はコロナウイルスの影響で、なかなか友達に会えなかったり教会での活動も制限を余儀なくされている。この状況の中で、私たちが大胆にキリストを語るとは、具体的にどういう方法があるかな?一緒に考えよう!

2021/6/15(火)

使徒 9:32-43

ペテロを通して、リダとヤッフアの町で驚くべき奇跡が行われ、その町の大勢の人がイエス様を信じるようになりました。

みんなはどんな神様のみわざを見たり体験したことがあるだろうか。一番身近な例で言えば、みんながイエス様を信じたこと、それが神様のなされた奇跡だよ!「神が遣わした者をあなたがたが信じること、それが神のわざです」(ヨハネ 6:29)

神様によって変えられた人生は、どんな議論よりも説得力のある証拠となります。宣教の難しい国とされている日本だけど、その中で僕ら一人一人の変えられた人生こそが、宣教の前進のためのなくてはならない神様の御業であることを覚えよう!

イエス様を信じる信仰によって、自分が救われたことを感謝しよう!そして、他の人の救いのために神様が用いてくださるように祈ろう!!

2021/6/16(水)

使徒 10:1-16

主はペテロと初代教会に宣教に関するご自身の偉大な計画を伝えるために、三度の問いかけを用いられた。

百人隊長コルネリウスは、異邦人であったにも関わらず敬虔で、神を恐れた人であった。御使いは彼に現れ、「あなたの祈りと施しは神の御前に…覚えられている」と語り、ペテロを招くよう指示された。一方、神はペテロに三回同じ幻を見せた。レビ記で記されている不浄とされている物をユダヤ人は食べなかった。今まで「食べてはならない」言っておられた神が、「屠って食べなさい」と言われたのである。ペテロは拒否したが、神は「神がきよめた物をあなたがきよくないと言ってはならない」と諭された。

ペテロのように、自分の思いや習慣によって、神の主権を否定してしまっているところはないだろうか。

2021/6/17(木)

使徒 10:17-33

コルネリウスはローマの百人隊長だったが、忠実な信仰を持っていた。そんなコルネリウスに天から幻が与えられ、ペテロを招くように命じられ、直ちに従った。異邦人が神様と近づくには選民であるイスラエルを通してでなければならないことを理解していたからである。このような交わりを通して、異邦人への宣教は広がっていった。

今は異邦人の私たちにも信仰が届けられている。そんな中であっても、私たちの中に異文化、異国の人に対する偏見はないだろうか?

神様は全ての人に愛を示されている。家族、親戚、友達、福音を知らない人はたくさんいる。私たちも自分のできる宣教を考えよう!祈ろう!

おにぎりの日 2021/6/18(金)

使徒 10:34-48

▶当時福音はユダヤ人だけのものだと思われていた。他の国の人々は異邦人と呼ばれ、神も望みもない者だった。そしてユダヤ人と異邦人の間には敵意があった。しかし、イエスの十字架は敵意を打ち壊した。

▶そして、ついに大きなことが起こった。ユダヤ人のペテロと異邦人であったコルネリウスが神の家族になったんだ!ペテロの福音のメッセージも今まで(36-42)より新しい2つの要素が加わっている:

- ①神はえこひいきをしない(34)
- ②どこの国の人であっても、神を恐れ正義を行う人は神に受け入れられる(35)

▶神の御心は、全ての人が救われて真理を知ることになることだ。あなたを通して福音を届けたいと主が思っている人は近くにいるかもしれない。隣人のために祈ろう。

2021/6/19(土)

使徒 11:1-18

今日のところで、昨日の箇所で救われたコルネリウスのことが話題に上がっているね。でもそれは救いの喜びではなく異邦人と一緒にペテロが食事をしたということ責めるためのものだった。当時はユダヤ人にしか救いは与えられないと考えられていて、文化としてそう思うのも自然なことだったんだ。バプテスマを導いたペテロ自身も、最初は「汚れている」と言って関わろうとは思ってなかったよね。

ただ聖霊様が導いてくださったことをしっかりと説明して、イエスキリストの救いが人種を越えてすべての人に与えられるということを皆が知って、そして神様を褒め称えた。私たち人間の文化や習慣を越えて、イエス様の救いは全ての人に与えられている!今日その救いを伝えるためにできることは何か考えてみよう!

2021/6/20(日)

使徒 11:19-30

使徒による働きの著者のルカは、教会による福音宣教がどのように前進してきたのかという様子を書きました。元々福音宣教はユダヤ人以外の人たちにみことばを語りませんでした。それはユダヤ人以外に福音を語る事が禁じられていたからではありません。これまで持っていた古い考えから抜け出すことができず、異邦人が救われるというようなことを誰も考えることができなかったからです。

しかし、アンテオケに来てからは異邦人にも語りかけ、イエス様のことを述べ伝えました。これはさりげない記述ですが、当時としては画期的な出来事でした。ここではユダヤ教とは全く無縁の人たちが集団で信じたのです。

私たちは学校や外出先等で、自分の中で「私はこういう人には宣教できません」と暗に言っていないでしょうか?伝道に遣わされて行く人が起こされるように祈りましょう!また、私達も伝道していきましょう!